

ゴーヤ(ニガウリ)の栽培方法 育て方のコツ

肥料

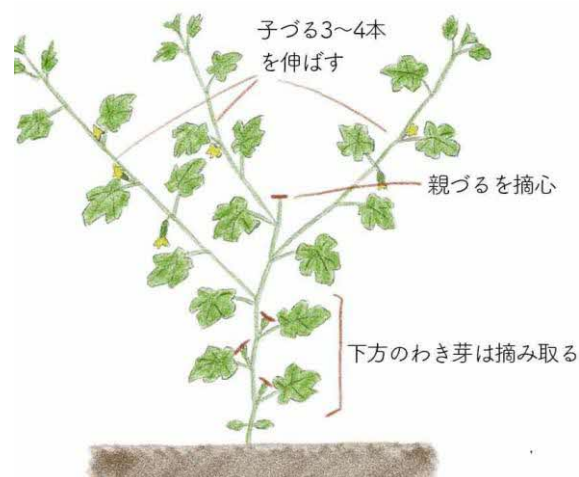
ゴーヤは継続的に肥料を必要としますが、与え過ぎると葉ばかりが茂って花芽が付かなくなるため、施肥量はほどほどに。肥料は「**ボカシ肥**」や「マイガーデンベジフル」のようなバランスのとれた配合肥料がオススメです。



整枝・摘心

ゴーヤの親づるは、子づるに比べると実がつきにくい傾向にあります。そこで、**本葉 6～7 枚で親づるを摘心**して、子づるを伸ばします。

つるを放任すると過繁茂になり実がつきすぎて大きくなりすぎないため、できるだけ上の方にある**元気のいい子づるを 3～4 本伸ばし、それ以外のわき芽は摘み取ります。**



追肥

親づるが 50cm 以上に伸びた頃、株の周りに追肥を施します。

受粉・結実

ゴーヤは、同じ株に雄花と雌花がつき、自然に受粉して結実します。実付きが悪い場合は、朝のうちに雄しべの花粉を雌しべにこすりつけて、人工授粉させると確実です。



トラブル・生育不良

*雌花がつかない

生育初期は雄花が多く咲いて雌花は少ないですが、雌花は短日条件でつく性質があるため心配いりません。6月下旬の夏至を境に短日になりますが、実際は8月頃から盛んにつくようになります。また、雌花は子づるに多くつくので、親づるを本葉 6～7 枚で摘心して子づるを伸ばすとより多く収穫できます。

*実がならない

実がならないのは、授粉していないためです。

つるや葉ばかりが茂っているのに実がならないのは、肥料の与えすぎによるツルボケが原因です。施肥量を控えましょう。また、葉が重なりすぎて花が隠れているようだと、飛んできた昆虫が花を発見できず、授粉のチャンスを逃しているかもしれません。つるを丁寧に誘引してあげましょう。

*病気・虫

うどん粉病や炭疽病など、病気にかかっているかもしれない葉を見つけたら、すぐに切り取り処分します。虫も見つけ次第取り除きましょう。